

## 体位交換

- ・姿勢の保持 変形拘縮の予防
- ・同一体位による皮膚トラブルの防止

必要物品 □クッション □枕 □腹臥位マット

手順	留意点
1)体位変換をする前に、必ず口頭で本人に伝える。	
2)＜右側臥位から左側臥位になる場合＞ 右側臥位→仰臥位→左側臥位の順に二段階で体位交換する。  ＜仰臥位から腹臥位になる場合＞ 仰臥位→側臥位→腹臥位の順で体位交換をする。	一気に体の向きを変えるのは避ける。 二段階で体位を変えることで、本人の恐怖感や、体の緊張を防ぐことができる。
3)＜側臥位になる場合＞ ・枕の高さは、脊柱の延長線上に頭があるように調節する。 ・背中 of 支持面が広い方が緊張は低くなるため、クッションで背中を支える。 ・上側の手を支えるクッションを置く。 ・両足の間にクッションを置く。	・左右対称位になることで下側の肺にも空気が入る。  ・クッションにより支持面がつくられ、胸郭の動きが大きくなる。 ・呼吸が深くできているか胸郭に手を当てて評価する。
4)＜腹臥位になる場合＞ ・腹臥位マットの端で一度側臥位になり、頭頸部を支える。 ・腹側に手を置いて重さを支えることで、児の恐怖感を減らす。 ・体幹の長さをしっかり保ちながら、腹臥位にする。	・口や鼻がふさがれないように、顔の向きに注意する。
5)＜呼吸器を使用している児の場合＞ 呼吸器回路が引っ張られないように、回路に注意する。 回路は出来るだけ本人の体に沿わせておく。	呼吸器回路が引っ張られると、気管カニューレが引っ張られたり、回路の破損等のトラブルになる。